



Cisco Spaces : ライブ占有率 アプリケーション

この章では、**ライブ占有率** アプリケーションについて説明します。

- [ライブ占有率 の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Wi-Fi 占有率 \(2 ページ\)](#)
- [設定 \(4 ページ\)](#)

ライブ占有率 の概要

ライブ占有率 アプリケーションは、**ロケーション階層**に変更があった場合のカウンタの問題に対処するように強化されています。この機能強化の前に、新しいロケーションの追加、既存のロケーションの削除、または [TimeZone] などの重要なパラメータの更新などの [Location Hierarchy] の変更により、Wi-Fi の古いカウンタまたは誤ったカウンタが導入されました。

この機能強化により、[Location Hierarchy] の変更後にカウンタが無効になるため、現在の日の [Presence] チャートのカウンタがリセットされます（現在の時刻までのすべての既存の数値が削除されます）。

ライブ占有率 アプリケーションは、次のライセンスタイプで使用できます。

- SEE
- EXTEND
- SWITCH_EXT
- SMART_VENUES
- SMART_OPERATIONS
- SMART_OPERATIONS_BASE
- ACT (UI では Advantage と表示)
- UNLIMITED
- PREMIER_W

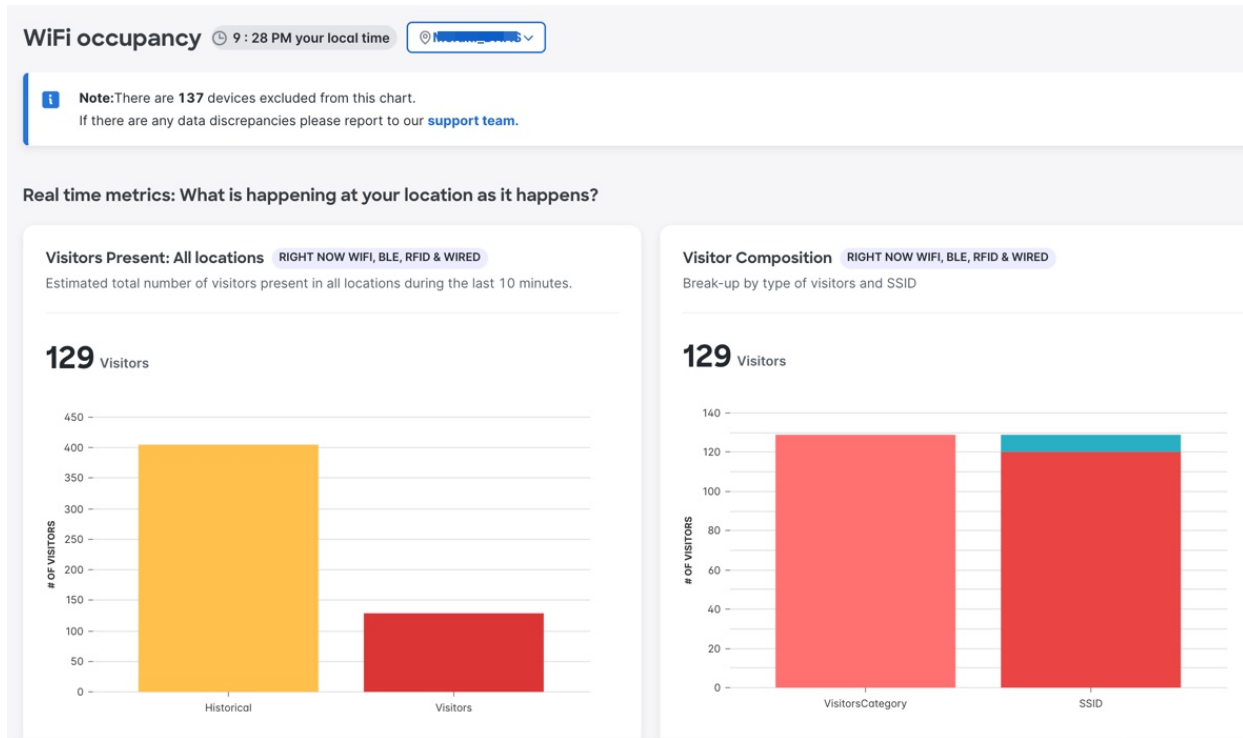
• PREMIER_CW

Wi-Fi 占有率

Wi-Fi占有率レポートには、自分が現在いるロケーションの訪問者の詳細が表示されます。デフォルトでは、レポートには、現在すべてのロケーションにいる訪問者の詳細が表示されま
す。最大でフロアレベルまでフィルタリングできます。

Wi-Fi 占有率は、訪問者と見なされない除外されたデバイスの数、またはデータ処理中にフィ
ルタ処理されたデバイスの数を表示できるように機能強化されました。除外されたデバイスの
数は、[Wi-Fi占有率 (WiFi occupancy)]の[注記 (Note)]セクションにメッセージとして表示
されます。

図 1: ライブ占有率 アプリケーション





- (注)
- ロケーション階層でロケーションが削除または変更された場合、またはタイムゾーンが変更された場合、既存の [Presence] チャートのカウントはリセットされます。
 - BLE 処理の場合：
 - IoT の最新情報の一部として BLE グループ情報を受信する必要があります
 - RSSI 値は -85 より大きくする必要があります
 - プローブデバイスの場合：
 - シスコ コネクタおよびその他のデバイスタイプ : RSSI 値が -70 より大きい必要があります
 - Cisco Meraki : RSSI 値は -100 より大きい必要があります。

指定された信号強度しきい値を満たすプローブデバイスのみが、Firehose データストリームの一部としてデバイスロケーション更新イベントを共有できます。

ライブ占有率レポートの表示

ライブ占有率 レポートを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces ダッシュボードで、**ライブ占有率** を選択します。

ライブ占有率 アプリケーションが表示されます。

ステップ 2 [Location] ドロップダウンリストから、目的のネットワークロケーションを選択します。

選択したネットワークロケーションの **ライブ占有率** レポートが表示されます。

レポート上部の **ライブ占有率** セクションに、使用システムのローカル時間が表示されます。

ライブ占有率 レポートには、次のチャートが表示されます。

- [Visitors Present: All locations] : 子ロケーションを含むフィルタリングされたロケーションでの、過去 10 分間の推定合計訪問者数を表示します。
- [Visitor Composition] : アクティブな訪問者の構成を、SSID カテゴリ (従業員、ゲストなど) および SSID (上位 5 つの SSID) ごとにパーセンテージで表示します。
- [Visitors Present: All Locations] : フィルタリングされたロケーションでの、過去 10 分間の合計訪問者数の傾向を表示します。

- [Visitors Present: Map View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションでの、アクティブな訪問者のロケーション別カウントを表示します。
 - [Map View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションが、それらの各子ロケーションの合計訪問者数とともに世界地図に表示されます。
 - [Floor map view] : 特定のフロアを選択すると、選択したフロアマップビューも表示されます。

選択したロケーションに、Cisco CMX からインポートされて Cisco Spaces にアップロードされたマップがある場合、そのフロアと、表示されたフロアの合計訪問者数を表示できます。
 - [List View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションが一覧表示され、各子ロケーションの現在の訪問者数とそのロケーションに対して表示されます。

(注)

- 「アクティブな訪問者」とは、過去 10 分間にそのロケーションにおいて、ネットワーク (WLAN または SSID) に接続している訪問者です。
- 10 分間の中でデバイスの滞留時間が 1 分未満の場合、そのデバイスは Right Now レポートから除外されます。
- 過去 51 週間の平均値が、レポートの各チャートの履歴データとして表示されます。

設定

[設定 (Settings)] メニューは、**ライブ占有率** アプリケーションレポート内のデバイス、SSID、および訪問者を管理するのに役立ちます。[Settings] メニューには、[Include/Exclude Devices] タブと [Categorize Visitors] タブが含まれています。

デバイスを含めるまたは除外する

[デバイスを含める/除外する (Include/Exclude Devices)] タブを使用して、**ライブ占有率** レポートの Wi-Fi、BLE、および RFID デバイスについて次のオプションから選択します。

- Wi-Fi デバイスオプションはデフォルトで含まれていて、その選択を解除することはできません。

特定の SSID に接続されているデバイスを **ライブ占有率** 分析から除外するには、[追加/編集 (Add/Edit)] または [除外リストの追加/編集 (Add/Edit excluded list)] をクリックし、[SSIDを除外する (Exclude SSIDs)] リストから目的の SSID を選択します。
- BLE タグ : **ライブ占有率** レポートに BLE タグを含めるには、[BLE タグを含める (Include BLE Tags)] をオンにします。

ライブ占有率分析から特定のデバイスグループを除外するには、[追加/編集 (Add/Edit)] または [除外リストの追加/編集 (Add/Edit excluded list)] をクリックし、[BLEデバイスを除外 (Exclude BLE devices)] リストから目的の BLE デバイスを選択します。

- RFID タグ : ライブ占有率レポートにRFIDタグを含めるには、[RFIDタグを含める (Include RFID Tags)] を選択します。



-
- (注) • RFID タグと BLE タグを選択すると、対応するデバイス数も **ライブ占有率** レポートに表示されます。
-

訪問者の分類

[Categorize Visitors] タブを使用して、SSIDに参加した訪問者を訪問者タイプに基づいて自動または手動で分類します。次のオプションを使用できます。

- Auto
- ゲスト
- Employee
- Custom

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。